

# 西日本で相場急上昇

## 廃バッテリー

### 輸出単価 90円うかがう 集荷競争激しく

西日本地区で廃バッテリー（使用済み自動車用鉛蓄電池）の市中取引相場が急上昇している。今月に入りキロ80円台半ば近くを付け、輸出単価は90円に届く勢い。月初の鉛建値急伸に加え、九

州・中国地方で輸出業者や一次製錬メーカー向けの直納業者による集荷競争が激しくなり、関西地区にも高値が波及しているようだ。

廃バッテリーは鉛リサイクルの主原料。韓国・一次精錬メーカー向けの輸出業者と、国内一次製錬・二次精錬メーカー向けの集荷業者の高値オファーが交錯し、9月下旬までは70円台半ばだったが、「足元は83～84円あたり」（市場関係者）と言われている。市中相場としては約10カ月ぶり高

値。2015年前半には市中取引で100円の大台を付ける局面もあったが、ロンドン金属取引所（LME）の鉛相場が下落したことや、韓国二次精錬業界が米国やアラブ首長国連邦（UAE）からの

調達を増やしたこともあり、日本に対する高値買い圧力は緩んでいた。

財務省の貿易統計によ

ると、輸出平均単価は15年5月の105・8円から、今年7月は80・6円までの1年2カ月で合計25・2円（23・8％）下落。韓国向け輸出が本格化した当初の12年12月以来の安値に落ち着いている。輸出先の韓国の二次精錬業界では6月、ヒ素を含む精錬残渣を違法投棄していたとしてメーカー11社が一斉

摘発され、その操業と輸出をめぐり先行き不透明感が強まったことも、市中相場を冷やしていた。

しかし、LME相場が9月末に急伸し、10月初めの国内鉛建値は2万1000円大幅アップの27万円に上方改定されるとムードが急変。一部集荷業者の高値提示が市況全体を押し上げる格好となり、「全く手が出ない値段になってしまった」（二次精錬メーカー幹部）。特に門司・戸畑・博多港などの北九州地区

は、従来から韓国向け輸出が盛んな地域だが、ここに来て価格競争が過熱しているようだ。

先日発表された韓国の貿易統計では、9月の対日輸入単価は年初

と比べて8％高い85円まで上昇した。違法投棄問題が落ち着いたと見られる韓国の二次精錬メーカーは、リサイクル原料の購入意欲が復活しつつあり、今月の続伸が予想される。